

学校教育目標	豊かな心 大きな夢 つなげ広げる 美東の子 ○豊かな心 (徳)礼儀を重んじ、友達を思いやり、感謝の気持ちをもつ子を育てます。 (体)健康の大切さを知り、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。 ○大きな夢 (知)自ら興味や関心を広げ、あきらめずに挑戦する子を育てます。 ○つなげ広げる (公)自らができることを考え実践し、他者と共に生きようとする子を育てます。 (開)様々な人とのコミュニケーションを大切に、豊かに表現できる子を育てます。				
学校概要	創立 49 周年	学校長 野澤 聡子	副校長 我妻 まゆみ	2 学期制	一般学級: 16 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 479 人	主な関係校: 美しが丘小学校 美しが丘中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	美中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
・「ひと・もの・こと」と積極的に関わり、主体的、対話的で深い学びを通して、物事を多面的に考えたり、他者や自己を理解しようとしたりする態度を育てるとともに、思いや考えを伝え合う力の育成を目指す。	美しが丘中学校 美しが丘小学校 美しが丘東小学校	夢を抱き ともにによりよく生きようとする子ども ～自分で考え行動し、問題の解決を通してよりよい未来を切り拓こうとする子ども～ 【小・中学校での「児童・生徒指導」と授業づくりの共通化】 ・小中一貫推進担当者会議の定期開催 ・夏季合同研修会の開催と内容の充実 ・各校間授業見学 ・児童生徒指導、学習指導の共通理解と実践 ・児童生徒間の活発な交流の推進 (横浜こども会議、ブロック保健委員会、合唱、部活動、清掃活動、授業交流等) ・地域への情報公開の促進 ・目指す子ども像を実現するための教育課程の編成

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切に、まちの教育力を活かした教育を推進し、人とのかかわりを大切にした魅力ある学校にします。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの思いや学び合いを大切にしながら自己の成長を感じられる授業作りを目指す。 ・児童理解、特別支援の体制を充実させ、日々の観察やデータを活用しながら、子ども一人ひとりの実態の把握に努め、子ども一人ひとりが自己有用感をもち「行きたい学校」「安心できる学校」と思える学校にします。 ・まちの教育力(保護者、地域、ボランティア等)を活用した学習を取り入れ、まちの「ひと・もの・こと」とのつながりを意識した体験を通して、子どものまちを愛する心を育てます。 ・学校、家庭、地域、諸機関の連携を密にして、健康で安全な学校生活が送れるようにします。 ・「チーム美東」として全教職員が、主体的に学校運営に参画して、活力ある学校づくりをします。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①めあてをもって主体的・実践的な課題解決能力を身に付けられるようにするためICTを効果的に活用したり、子どもが自分の学びを判断して選択しながら学習を進められるようにする。②重点研のテーマを「個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す国語科」～子どもに委ね、子どもが創り、主体性が伸びる授業～とし、国語科を中心に一人ひとりが自分の学びを主体的に進められるようにするとともに、友達との対話を通して、新たな視点を獲得し、思考をより深く豊かにして行く学びを目指す。
徳	豊かな心	①年間を通して縦割りの「なかよし活動」を行い、異学年のつながりを築く中で、思いやりの心を育むようにする。②保護者、地域、ボランティアなど「まちの人」とのかかわりを生かした学習を充実させ、感謝の気持ちやまちを愛する気持ちを育成する。③「あいさつ運動」をきっかけに、自ら進んであいさつする姿を大事にし、あいさつを「誰もが安心して豊かに過ごせる学校作り」の第一歩としていく。
体	健やかな体	①けんこう会議ではをテーマを絞り、各学級が決めた取組を振り返り自らの健康生活に関心をもつことができるようにする。②体育委員会と連携して全校で体力アップ週間を設けて実施する。また、集委員会とも連携してなかよし(異学年)グループで交流を図りながら体力の向上を目指す。③体育委員会などが校庭での遊び方などを紹介し、外遊びを推進する。④体育科授業内でもICT化を推進する。ICT活用事例などを全職員と共有する。
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりや地域での活動の中で自分の思いを表現しながら一人ひとりが自己有用感や自己肯定感を高めるようにする。 ②「自分づくりパスポート」を活用し、子ども自身が自分の状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自身の変容や成長を実感できるようにする。
いじめへの対応		①いじめアンケートを年3回実施し、いじめの未然防止が早期発見に努める。アンケート後は全ての児童と教育相談を行い、児童の声に寄り添う体制を組む。②YPの結果や横浜子ども会議の内容を個々の児童理解や学級の人間関係づくりに生かす。学級風土づくりに必要な横浜プログラムの活動を授業等に取り入れていく。YPアンケートはiPadで行う。③児童指導共有シートを活用し、教職員間の迅速な情報共有を行い、保護者との連携も大切にしながらいじめへの対応に当たる。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンターチームが計画的に活動できるように、ミドルリーダーの助言のもと、年間計画を立てて活動する。授業力の向上だけでなく、日々の悩みや不安等を、同じ立場で一緒に考える場としていく。②よりよい学校運営を行うために、具体的な目標を立てて取り組んでいく。学校運営組織に示された役割について、キャリアに応じて目標と取組内容を設定し、自己観察書に記載し実践する。③教務会では、広い視野でよりよい学校運営を行えるよう意見交換をする。必要に応じて主任会を行い、学校全体で同じ目的、方向性で支援や対応が行えるようにする。④働き方改革推進のために、会議の効率化、児童・保護者対応の共有化、年間計画・行事の見直しを図る。⑤副担任制、教科担任制TT等、学年や学校全体で子ども達を支援し、担任を支える体制を整える。
児童指導		①スタンダードや生活のきまりについて、児童が主体的に考え、決めていく方向で検討を行う。「誰もが安全に、安心して生活できる」ことを基本に見直していく。②職員全員が、それぞれの職務や立場で児童と関わる中で気付いた様子を共有し、SC、SSWや外部機関とも連携して問題行動の未然防止や早期対応に努める。③児童・保護者に「学校の先生には、誰にでも困ったことを相談できる」ことを引き続き伝えていく。④横浜スタジアムの健康状態を担任が確認し、必要に応じて聞き取りをするなどの活用をする。
特別支援教育		①発達障害等を持つ特別支援の必要な児童への配慮や対応、保護者との協力関係の築き方について研修で学ぶ場を設けていく。 ②学校にはいろいろな子どもがいて、それぞれに合う学びの方法や場があることを児童・保護者に伝えていく。その一環として、チャレンジルームの一層有効な活用方法を検討していく。③個別的教育支援計画・個別の指導計画を活用できるよう、研修や作成・扱い方の共有化を図る。④特別支援としての観点でもICTの活用を推進していく。
安全管理		①地震や火災がさまざまな状況下で起きることを想定し、授業中や休み時間や朝の時間に予告ありや予告なしの場面を設定した訓練を実施する。また、児童向けと教職員向けの不審者対応訓練を行う。②毎月中旬に安全点検を行い、校内に不備がないか確かめる。不備は管理職や技術員と相談し、対応する。③警察等の関係機関と連携し、交通安全教室、防犯教室を該当学年の発達段階に応じて実施する。
授業改善		①各学年で教科担任制の取組や交換授業を行い、教材研究の充実や指導技術の向上に努める。②個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、個に応じた学びのオーダーメイドを実践し、一人ひとりが「わかる喜び」「できる楽しさ」を感じられるようにする。③ICTの活用を進め、効果的な学習を展開できるようにする。